



くすっ子

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巢小》

屈巢小学校だより
令和3年1月5日

No. 9

仁 「論語」より

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年も何卒、屈巢小学校の教育活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本県深谷市出身の渋沢栄一が、NHK大河ドラマになったり、新一万円札の肖像に採用されたりアンドロイドとなったりと何かと話題に事欠かない状況です。渋沢栄一については、埼玉県教育委員会発行の「家庭用 彩の国の道徳」の中に、

渋沢栄一は若い頃、幕臣としてパリ万国博に随行し、進んだヨーロッパ文化に感銘を受けたそうです。1869年に大蔵省に入省しましたが四年で辞めてしまいました。銀行を発足させた栄一は、民間の事業を盛んにしようと努力しました。少年時代から愛読していた『論語』を道しるべに商売を始めたのです。(略)とは言っても、「金儲けには手段を選ばない」というのもよくないことだ。だから、その中間にものごとの真理があると栄一は考えました。「論語と算盤(そろばん)の間をめざす。」(略)この考え方を栄一は、「道徳経済合一説」とよんで、生涯、自分の説を曲げませんでした。

とあります。渋沢栄一が起こした事業は数知れず、まさに「近代日本資本主義の父」と呼ぶにふさわしい、明治以降の日本経済の礎を築いた人物です。

話は「論語」に移りますが、「論語」とは古代中国思想家であり政治家の孔子とその弟子との「問答」の記録を主に著した書物です。栄一は利益追求の一方でエコノミックアニマルにならないため「算盤」と「論語」を両立させました。「論語」は人間相互の愛情や思いやり、人間社会のきまり等が弟子との問答の中で説かれています。孔子の教えはよく「仁義礼智信」等で表されます。「仁」について、「論語」では、

子曰わく、民の人に於けるや、水火よりも甚だし。水火は吾れ踏みて死する者を見る。未だ仁を踏みて死する者を見ざるなり。

訳…人民にとって仁愛は水や火よりも大切なものだ。しかもだ、水や火なら誤って踏み込んだ者を溺れさせたり、火傷で死なせたりするだろう。しかし仁愛は踏み入った者を絶対に傷つけたりしないんだ。人民にとって、仁愛ほど有益なものはありゃあせんよ。(「高校生が感動した『論語』」 佐久 協 祥伝社 2006年7月)

「仁」とは易しく言うと「思いやり」です。思いやりは、何か人に行動を起こさなくてはと考えますが、「論語」の中にもあるように、まずは「己の欲せざるところ、人に施(ほど)すことなかれ。」が大切だと思います。実行できれば当然「いじめ」も起きません。

屈巢小の学校教育目標の一つが「思いやりのある子」です。この目標を具現化するためには「特別の教科道徳」の授業が要となりますが、道徳教育は学校教育全体の中でも行われるべきものです。教職員一丸となって推進して参ります。(校長 橋本 浩)